

# 北の火アリ

第 10 号

健康生きがいづくり  
アドバイザー  
北海道協議会

代表 長谷川 聰

☎011-219-8701

題字 会員塚本 久二子（札幌市）

## 「フィンランド・オーロラの旅」

健康生きがいづくりアドバイザー  
北海道協議会事務局長

成瀬 勝也

昨年の暮れラップランド・サーリセルカへ行った。以前から一生に一度は「オーロラ」を見たいと言っていた女房が「フィンランド・オーロラ8日間の旅」という安いツアーを見つけて来た。実は私は雪国生まれなので、わざわざ寒い所へ行くのはあまり気乗りしなかったのだが、サーリセルカで遭遇した天空を音もなく揺らめくオーロラの不思議かつ幻想的な風景は想像以上に感動的だった。しかしそれよりも、一日中太陽が顔を出さず、ほんの2、3時間だけ夜明け前のような明るさになる厳しい自然の中で、明るく生き生きと普通に暮らしている人々の生活にすっかり驚いてしまった。逆に720時間太陽が沈まないという夏はどんな暮らしなのだろう？

もうひとつ驚いたのは、マイナス25度の世界に宮崎から79歳と81歳のおばあちゃんペアが、行田からは78歳のおばあちゃんが一人で参加していたこと。

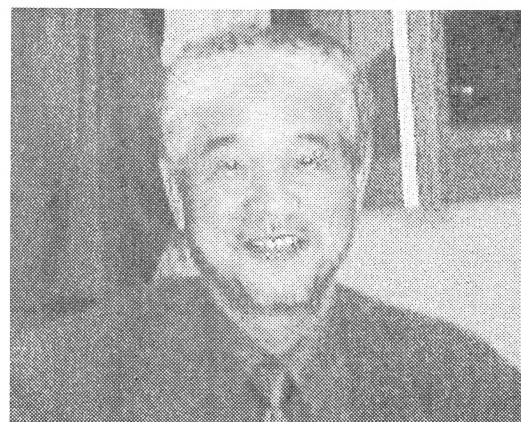
幸い三晩連続で、最初の夜には添乗員も初めてという位のすごいオーロラに出会うことが出来た。それは深夜2時ごろ、寒いのなんの北海道弁「シバレル」真っ只中での奮闘の代償であった。もっとも、オーロラ番を買って出た若者たちが、よいところで年寄り組を呼びに来てくれたおかげで、安心して私の目的の一つ北欧名物サウナに入る時間もあった。オーロラは、そのホテルの庭、我々の部屋を出たところで見られたのも幸運だった。オーロラを待つ時はみんな

寒さ対策万全で、中には7枚も重ね着をしているというのもいて顔をマフラーで覆面、すっぽりフードを被って男か女か若いか年寄りか見分けもつかない。ここへ来たらカッコウなんかつけていられないのだ。そんなのが出たり入ったり、現地の人が見たらさぞ変な団体に写ったことだろう。

因みにツアー一行36人中男性は7人（新婚を含む若者4人と奥さんに牽かれて来た定年組3人）だった。

トナカイの櫂にのったり、世界最北のゲレンデでスキーをしたり、トナカイ肉のステーキやら、雷鳥の焼きとり等々得がたい体験をさせてもらった。

それにしても好奇心旺盛な女性陣のパワーに健康生きがいづくりの手本を見たような「オーロラの旅」であった。



## 研修会の報告

札幌市 山本 香

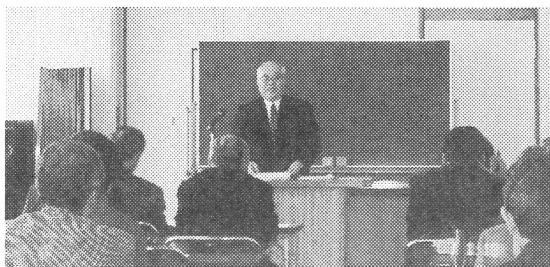
北海道協議会主催の研修会が、平成15年1月18日（土）13時30分から札幌市民会館に43名の方が参加して開催いたしました。

長谷川聰会長の挨拶に始まり、健康生きがいづくりアドバイザーでもあります野口鉄夫講師により「介護保険制度と介護の実態について」の講演をいただきました。

野口講師は、濱育ちで、金融機関にお勤めしておりましたが、その後、福祉の社会に転職してご活躍され、大成町で特別養護老人ホーム施設長を経験し、現在共和町で特別養護老人ホーム開設のための準備室長を務めています。

講師は、マイクのいらないほど声に張りがあり、優しさがあふれる顔立ちと風貌は、話術のうまさとかみ合って、中身の濃いお話の中に自然に引き込まれ、気がついたら終わっていました。

豊富な現場経験からの介護の実態のお話は大変面白く拝聴し、また、老後のささやかな蓄えを子供との係わり合いのなかで、どのように使つたらよいのか考えさせられるとともに、大きなテーマを私たちに与えてくれました。



休憩の後に、佐藤昭男講師より「生きがいづくり」について講演をいただきました。

佐藤講師は、会津若松のご出身で樺太での生活体験をお持ちの方です。HBCラジオでワイド生番組を担当するアナウンサーを経験し、現在アンスアカデミーの理事長をしながら、北海道文教大学などで後進の指導をされている方でもあります。

毎日なんとなく聞いているラジオ番組、そこでアナウンサーとして話すことのご苦労、ご努力がよく分かりました。

その道のプロといわれる方から、日常よく使

われる言葉で「おはようございます」は、その発声するイントネーションによって、元気の出る言葉にもなりますし、なんとなく沈んだ言葉にもなってしまいますよというお話にはすごく説得力がありました。

講師の鍛え抜かれた声と話術は聴講された皆さんも充分満足したものと思います。

お忙しい中、講師を快諾していただいた野口さん、佐藤さんに改めて厚く御礼を申し上げたいと存じます。

## 新年会をお手元にさせてもらって

札幌市 周尾 正則

数名の会員で、研修会と新年会の準備に入りました。3~4回で大筋の打ち合わせが完了しました。あとは、自分の受け持ちの部分で、細部のつめに入りました。

案内文、返信はがきの作成、チェック、会報の封筒入れ等皆さんのお手元に届くまでの作業は、とにかく大変でした。

季節的に、年末ということも重なりまして、会員の皆さんにとっても繁忙期なのか、はがきの回収が遅いので、ハラハラしていました。

研修会の内容のことでも、あまり堅苦しいと眠気を誘いますし、あまりザックバランではどうだろうかなど、どこまで講師の方にお願いをしていいのか、本当に悩みました。



それと、お楽しみの新年会をどのような趣向で進めるか、いろいろ流れを考えてみました。会費は適切か、食事の内容はどうか、それと、どのように会を盛り上げていくのか、品よく、楽しく、型にはまらず、健生風に進めようと決めました。特に食事だけは、女性の会員に支持してもらえるように努力しました。

女性が喜んで参加しない団体は、絶対繁栄し

ないという私の思いもありまして、形式的、堅苦しいということを極力排除しました。このことは、これからもいろんなところで継承してほしいと思います。そして当日、いろいろ準備していたつもりでも、いざ本番で、まごつきもありました。

研修会のお二人の講師の方のお話は、とても簡潔で温かみのある言葉と内容で、笑いあり、ため息ありで、とてもよかったです。

新年会は、式次第等を一切準備しないで、いきなり乾杯からはじめ、祝宴に入るという形をとらせてもらいました。なるべく、全員に参加意識を感じてもらいたくて、予告なしで指名させていただき、混乱した人もいたと思いますが、これはこれで大成功であったと自負しています。

司会の私が、あちらこちらのテーブルを走り回っているものですから、お酒が飲めないのでと聴会長が気遣って、ビールの入ったコップを持って追いかけてくれたのには、本当にありがとうございました。

予定された時間も無事経過し、参加者全員「年甲斐もない人達」になり、だからこそ、生きていくのが楽しく、生き甲斐を感じができるのだと実感しました。

## バングラデッシュの子供たち

札幌市 家守 朋恵

平成15年1月4日から1月11日までの8日間、私たちは、バングラデッシュのボロヴィタ村「ボロヴィタサッポロフレンドシップスクール」の子供たちに会いに行ってきました。

南アジアのバングラデッシュは、ガンジス・プラマップトラ河のデルタ地域に立地する農・漁業国で、人口約1億2千万人、毎年雨季には、国土の40%が洪水に見舞われる国です。

人々の生活は、1日1ドル以下の貧困ライン以下で暮しており、最貧国の一つです。

識字率が低く、国全体で5年間の義務教育を終える人は約20%程度、女性はその半分くらいといわれています。地方にいたっては更に低くなっています。

貧困から抜け出すためには、教育が大きな力になると、日本・札幌の北大を軸とした有志「バ

ングラデッシュの教育を支援する会」の資金により、2000年5月に学校を設立しました。学用品、教科書、給食、制服、履物等を支給し、生徒30人、スタッフ3名でスタートしました。

毎年1教室ずつ増設し、昨年3教室になりました。土地の関係上これ以上の増設は望めず、今年は4年生を2部制にし、1月に120名体制で新学期が始まりました。

子供たちとの交流は勿論のこと、職員会議をしたり、父母たちと懇談をしたり、ビデオショーをしたり、家庭訪問をしたり大忙しの日程でした。現地の人に呼ばれて家庭訪問をしたときは、通訳を連れずに出かけたのですが、何とかよい時間を共有することができました。通じるものとしみじみ思ったものです。6畳1間もないような竹で編んだ家に、竹のベットが1つ、隅のほうに布がかけてあり、茶箱のようなトランクが1つ、これがすべてです。

この家で家族5人が暮らしているとのこと。台所、トイレ、お風呂なし。ウサギ小屋と揶揄された日本ですが、なんのなんの、上には上が、下には下があるものです。

北大から巣立った学校らしく、新渡戸稻造先生創設遠友夜学校の精神に溢れたこのスクールは、いずれバングラデッシュを背負う人材が育つと思われます。大人の職業訓練校も視野に入れています。子供たちは学ぶことが楽しいといい、どの子も中学校へ行きたいと瞳を輝かせます。学びたがっています。



問題に感じたのは、大人には、自分で何とかするという気持ちが、感じられないことです。やらずに出来るものはないのに、「やれば出来る」を諦めているように見えました。貰ったり、たかったりが、当たり前のように見えました。長い歴史に身分の壁が影を落としているのかもしれません。肩をゆすって、「諦めないでよ、

貴方の中のすばらしい貴方を表にしてよ！」と叫びたい気持ちでした。

現実として産業が乏しく、職業に就くのは大変ですが、もう少し「ヤル気」を出して、地道に働き、次世代にバトンを渡してほしいと思いました。

教育を支援するということは、木を育てるようなものです。百年の計画では、結果はすぐに出ません。きっと、人材が生まれて育つはずと信じて待つのみです。

気の毒な現状を見て帰ってきてから、「教育を支援する会」に入って下さいとお願ひしています。一人一人の力は小さいけれど、善意の心を集めれば、大きな力になります。年会費3千円は、そっくりバングラデッシュの学校に届きます。ご協力をどうぞよろしくお願ひいたします。

### 健生北海道の活動拠点「事務所」オープン

札幌市 上野 正志

平成9年10月の健生北海道協議会の設立総会の記念講演の講師として呼ばれた北海道演劇財団の平田事務局長から「上野さん、面白い資格があるよ」と聞かされて知った健生アドバイザーの資格を平成12年2月に取得、活動を開始以来、自分の念願は、アドバイザーの現地養成講座の開設と事務所を持つことでした。

うれしい事に二つが遂に実現しました。

まずは平成14年の4月と10月の養成講座で70名の受講生が集まり、事務所開設・運営資金を確保することが出来ました。

さらにラッキーな事に札幌市中央区のビルの一室（加藤勢津子会員の子息が経営する会社所有）を格安の条件で提供していただきました。

正式オープンは4月ですが、昨年末から今年にかけてFMラジオの番組製作を始めとして各種行事の活発な活動が展開され、各チームが打合せの場所確保にも極めて難渋している姿を見て、2月1日（土）からの仮オープンを決意しました。



上げ潮の健生アドバイザー活動を応援するが如く聰会長知己の会社の事務所統合で余った机・椅子・会議用テーブル・レンジジャーボックス等の必要な事務機器類を周尾正則さん、中島寛子さんと三人でゲットし赤帽で運送、塚本久二子さん宅にガレージに一時預りオーケーで一安心。開設費用は35～50万円を想定していましたが、電話敷設に伴うISDNのTA代金と運送費などを含めて約7万円しかかっていません。会員の皆さんのお晴らしい善意のお陰です。

次のものが会員から善意で提供されました。月間予定表、ホワイトボード、ファックスつき電話機、冷蔵庫、ポット、コーヒーメーカー、CDラジカセ、時計、文房具類、コップ等食器類、スリッパ、カーテン、肩入れ、包丁、まな板、タオル、洗剤・石鹼、玄関マット、卓上ガスコンロ、なべ、ヤカンなど数え上げればきりがありません。すごい、すごい、すごい。

パソコンと電子レンジも決定しています。

テレビとビデオはそのうちです。

東京の健康・生きがい開発財団からは壁掛けの時計の寄贈を受けております。

2/1と2/2の仮事務所開きには大勢の会員が集まり開設を祝いました。正式な事務所開きは4月に入ってから行う予定です。

現在、13時から16時まで、ボランティアで会員が交代で事務所に詰めています。

3月の常駐体制も編成中です。会員の申し出を待っています。

打合せも頻繁に行われ有効に活用されています。なお、5階にある「アレックス」という喫茶店が2/26に改装オープンしますが、ウーさまは会員活動交流会や各種研修会、ミニ講演会、ミニコンサートの会場として狙っています。会員の皆さん、是非一度事務所に顔を出してください。リラックス出来る癒しの空間です。

### メーリングリストへのお誘い

Eメールアドレスをお持ちの方は、  
メーリングリストへ参加しませんか？  
会員の活動状況などが詳細に素早くわかります。

参 加 す る に は

長谷川 聰 アドレス〈haseg@hoku-iryo-u.ac.jp〉  
にメール下さい。

## 健康生きがいづくりアドバイザー 養成講座開講にむけて

札幌市 岡田 朋子

平成15年4月に「健康生きがいづくりアドバイザー養成講座」が昨年に引き続き開講され、3月1日より募集がはじまりました。講座内容は「現代社会と中高年」に新しく北星学園大学教授 杉岡直人氏を迎えます。専門は地域社会福祉とNPO研究等で各種公職・委員を勤められ現実に即した深い講座がおおいに期待できます。講座担当は上野正志さんを中心に私とアシスタントは安藤百合子・木野敏子・木村満子・村田総枝で運営にあたります。

先日、前回の養成講座を終了した37期生が富士吉田から戻り「37元気の会」を立ち上げました。新たな自分を発見して驚きと喜びを味わい前向きに輝きながら仲間作りしている彼らの生き生きとした様子を見て無性にうれしく養成講座のすばらしさを改めて実感しました。

人は何かを求めて歩きはじめ、一歩を踏み出す時勇気がいるが大きく成長できます。「37元気の会」を見て養成講座受講は「幸せがはじまる」そんな言葉が浮かびます。受講生の募集にあたり皆さんのご協力をお願いします。

### 第37期生が山梨から帰ってきました！

第37期生 近井 忠



富士山を目の当たりにし感激！長い間、雪に閉ざされ身動きの取れなかった私たち37期生を富士山がやさしく包み込んでくれ、リラックスするのにはそんなに時間はかかりず、遠くに来たという緊張感もほぐれ、たちまち大らかな気

持ちにさせられました。

素晴らしい天気と富士山の雄姿を見ながらの研修には気合いが入り、岡部宅の毎晩の飲みにケーションでは仲間の絆を強くし、いつまでも忘れられません。

特に女性群の頑張りには目を見張るものもあり、昼は演壇に立ち、夜は全国の志を同じくする仲間と酒を酌み交わし熱い思いを語る、まるで多感な女学生を見ているようで頬もしい限りでした。まさに女性時代の到来です。

37期生は笑い上戸が多い、新宿の食堂でも研修所でも日替わりの主役が飛び出しジョークや本音を連発、腹を抱えて笑う屈託のなさには脱帽、この明るさが37期生の結束を固めているものと実感しました。

みんな元気会のネーミングも北海道の女性、とってもうれしい。

元気！元気！みな元気で北海道健生のために始動しよう！

### 東区コミュニティFMについて

札幌市 加藤勢津子

「さっぽろ村ラジオ」が東区ななめ通りの玉ネギ倉庫跡に開局する。そして、なんと健生北海道協議会が番組をもたせて頂けるというお話を、昨年11月に持ち上がったのです。

それから、ぐいぐいと本会特有の牽引力に引っぱられて、前向きに参加希望者が手を上げました。番組づくり実践にそなえて、1月に行われた、ラジオ番組制作セミナーに各自参加して、「NPO法人さっぽろ村コミュニティ工房について」「番組制作」「放送法」「アナウンス」「フリートーク」などを学びました。

さらに、当会FMプロジェクトで打ち合わせ会をもち、プロデューサー長谷川聰。ディレクター 上野正志。一週毎の担当パーソナリティ①加藤勢津子、福迫伊都子、庄田昌史、西条昌世②清水利章、細川美香、家守朋恵③小沼肇子、梅田 新、佐藤弓絵、三明由紀子④周尾正則、榎本聰子、山本悦子、栗田奈津子⑤家守朋恵、細川美香。①③の技術 石井政治（2/25現在。敬称略）というメンバーが出揃いました。

各チームで番組の企画を立て、一歩ふみ出そう

と/orしています。

2月14日、周波数81.3MHzで待望の予備免許が交付され4月1日開局と報道されました。4月開局に向けて、「健康いきがいづくりに関する情報提供」を柱に、“孤立する寂しさ”と“干渉される煩わしさ”的真ん中に位置して、聴いてくださる方々に受け入れられ、喜んでいただける発信を心がけ、そして、その後から私たち送り手も悦び合えたらいいなあと思っているところです。

### 市民活動交流パネル展に参加して

札幌市 周尾 正則

始めての経験でしたが、「やったもの勝ち」の精神で、昨年12月の説明会に参加して参りました。イヤー驚きましたね。いろんな団体の方々が参集されて熱氣でムンムンです。

担当者の説明があり、一言一句聞き漏らさずまいとメモメモメモ。その途中質疑応答もあり皆さん活発に発言しておられました。

約70団体が登録していました、老若男女、約150名位の参加だったと記憶しています。とにかくすごいパワーで、皆さんの顔つきと目つきが明るく真剣そのものでした。その後、数回の打ち合わせ、会員のみなさまから写真提供ありと何とか2月2日の市民会館でのオープンにこぎ着けました。早朝から皆さん元気で我が健生メンバーは礼儀正しく声が大きくはつらつとして女性が美人だったですねえ。

翌日は場所を移動して2月3日・4日と会員さんが交代で立ちあって無事終了しました。

3日間共通して感じたのは参加してくれた人、皆さんがとにかく明るい、言葉が前向き、行動がキビキビ、常に笑ってる、背筋がのびている、健生のメンバーが一番光り輝いていたことをメンバー全員にご報告申し上げます。

### 新入会オリエンテーションを実施

札幌市 長谷川 聰

2月22日（土）、北海道医療大学サテライトキャパスにおいて、新入会員オリエンテーション講座を開催した。会員としてアドバイザー活動を

始めるための情報提供が目的だった。直近養成講座修了者15名を含む28名の役員・会員が出席した。

午前9時半から午後3時半まで3つの講議だった。副会長の上野正志さんは会則・組織と会の設立から今日までの5年間の活動の歴史を説明した。この2月の事務所開設までの経緯、今年5月の総会及び全道研修大会開催の意図等についても詳しく述べ、新会員の積極的な参画参加を求めた。

事務局長の成瀬勝也さんは、初めに自らのアドバイザー志願の理由と経緯をユーモアを交えて講話した。受講者が新人アドバイザーであることに配慮したことだった。その上で、月例会や事務局作業の役割分担や内容を示して、これらが会員のボライティアであることを力説し、新会員の協力を要請した。

会長の私は会員一人一人、あるいは各地のグループ活動の事例を紹介した。そして10年間の活動体験を基に、健生北海道のメンバーとして個々の会員が行なうべき日々の活動の具体的な手法・方法・心構えを示した。講議の後に会計の相坂誠一郎さんから、会計年度変更に伴う事務処理と併せて入会手続きの説明があった。

最後に新入会員と役員の間で質疑応答と意見交換を行なった。諸氏が受講した養成講座について、忌憚のない意見や次回開講のための改善点や要望を伺うことができ、新入会員以上に役員一同にとって貴重な時間となった。

新入会員のための講座は始めての試みだった。自画自賛になるが実施して良かった。同時にもっと早期に実施すべきだったと反省している。100名を超える会員を擁する会で実活動会員が半数を超えるためには、このような会員のためのケアワークが必要であることを改めて痛感した。



# 新人紹介

第35期生 白崎 邦彦

只今白石の街づくりを地域の人達と一緒に企画、運営を進めている真っ最中JR白石駅新整備も、札幌市が計画決定、シンボリックな駅を目指す。

今年6月街づくりハウスをオープン。昨年白石農園から白石収穫祭までには、小学生や老人クラブ、商店街や町内会、行政まで巻き込み健生魂が發揮できた1年だった。今年は宮城県白石市民との大交流会。

第36期生 栄木なを子

福祉の通信教育を受け、ボランティア活動で、「自分さがしの旅」を始めました。仲間から声を掛けてもらったり、施設をはじめ、色々な所に参加させてもらっています。体調を崩してからは、押さえるようになりました。

特技のない私は健生の活動にどれだけついて行けるか分かりませんが、よろしくお願ひいたします。

第35期生 高坂 蓉子

この4年間で、義父母、実父をおくり、忙しい日々でした。

気がつけば、朝のモーニングショー、みのもんた、どさんこワイド、火曜サスペンス、に終る毎日を送っていました。

脳細胞は減るのに体重は増え、どっぽりと中年おばんさをやっておりました。今年こそは? 今年こそは? と思っている今日このごろです。

## 近況 100文字の私

栗山町 平畠 信夫

何か地域をしようと思い健生アドバイザーの資格を取得して4年目となりました。

栗山町は2年前より教育委員会主催の生涯学習の講座があり、受講いたしました。

修了者の自主的な展示部門、舞台部門等のイベント、例会等には参加し仲間づくりをし通じ地域活動をしております。

各地区及び北海道協議会の活動を参考にさせて頂いております。

これから夏になりますと、趣味の家庭菜園、日曜大工、パークゴルフ等非常に忙しい季節を迎えます。

帯広市 高木 隆吉

“健康づくり・生きがいづくり”このテーマに高齢者の方は皆真剣です。講演の依頼を受けお話を伺いますと、例外なく熱心に聞いて下さいます。



更別村老人クラブ連合会（八田信秀会長）の今年度研修会「生き生き人生・酒と健康」をテーマに

利尻町 高丸 良子

古い家から新住宅に移り暖かく過ごしています。

大学の勉強も3年生となりこのまま無事に進級し卒業したいと思っています。

### ヤシの実に思う

江差町 津村 万里子

海岸を散歩していてヤシの実を拾った。これで2度目である。2月、江差特有の「たば風」が吹き荒れた日、ヤシの実が打ち上げられていた。

「遠い所からようこそ」と声をかけて拾い上げ「名も知らぬ遠き島より」と歌いながら持ち帰った。熱帯地域からどのようにしてここに流れ着いたのだろうと想像していたがそれは新聞で知ることができた。日本海側では対馬海流の影響で北の方まで流され中には発芽能力を持ったものもあり果実の構造は海流散布に適しているという。そしてヤシの実にとって漂流は計算ずみであり、古くは縄文・弥生時代に容器などに加工されて使われていたということに驚いた。南の島から黒潮に乗り、ゆらりゆられて幾年月後かに流れ着くであろう彼の地で分布するというヤシの実に悠久を感じ、ヤシの実は語るのであった。繊維とコルク質の厚い果実をながめていると、海

とのつながりで世界中に分布するヤシの実に人とのつながり、地域とのつながり、自然や文化とのつながり等、様々なつながりの大切さを再認識した正在でいる。健生アドバイザーとしての活動もつながりをゆっくりと拡げ、幾年月をかけて分布するであろうかと拡がる夢をヤシの実に重ね合わせているこのごろである。

## テツの自殺

札幌市 清水 利章

「もしも～し、たいへん、たいへん、たいへん、たいへん！」  
 「どうした？」  
 「ってゆうか～、たいへん、たいへん。テツが死んだ、テツが死んだの！」  
 「なに～？ テツが死んだって！ こないだ会ったばっかしだぜ～、オレ！」  
 「ってゆうか～、自殺したの！」  
 「えっ？ いつ、いつ、いつ、いつ？」  
 「ってゆうか～、これはなんて読むの？ おがみざけ？ おしんしゅ？ おじんしゅ？ おこうしゅ？ それとも、おとそだっけ？」  
 「なに、なに、なに、なに？」  
 「神という字にお酒と書いてあるんだけど」  
 「神とお酒？ そりゃあ、おみき（お神酒）じゃねえか」  
 「おみき（お神酒）。そうそうお神酒を飲んでから飛び込んだんだって。りゅうおう山で」  
 「りゅうおう山？ りゅうおう山ってなんだそりゃあ？」  
 「流れるという字みたいので、石へんの字と、黄色」  
 「なに、流れるという字みたいので、石へんの字と、黄色だって？ そりゃあ、いおう（硫黄）じゃねえか」  
 「そう、そう、その硫黄山で飛び込んだんだって」「あの地獄谷へか？」  
 「で、彼女の携帯に自殺するあまのメールが入ったんだって」  
 「なんだいその自殺するあまって？」  
 「うまい（旨い）って字なんだけど」  
 「そりゃむねじゃないか」  
 「そう、自殺するむね（旨）のメールが入ったんだって。なんでも、マンションのかしゃくだけ？ かちんだっけ？ ちんしゃだっけ？ 貸すという字と借りるという字なんだけど」  
 「そりゃあ、たいしゃく（貸借）じゃねえか」  
 「そう、そのたいしゃく（貸借）のことでもめて自殺したんだって！ しかも、あの神奈川県警のかんついだって。かんついじゃなくて、かんきつ、かんづい、かんじく、だっけ？」  
 「そりゃ管轄（かんかつ）だっつうの？ バーカ！」

「それで、うるさく家賃をかんそくされたんだって！」

「かんそくされた？」

「ってゆうか～、ていそくされた？ じんそくされた？ そうじやあなくって～、とくそく（督促）だっけ？ なんかいも督促されたんだって！」

「それで自殺したのか？」

「みんなすうじゅを持ってね」

「すうじゅ？」

「ってゆうか～、すうしゅだっけ。あ、ずじゅだよ」

「そりゃ、ずじゅじゃなくて、じゅず（数珠）じゃあねえか」

「そそうそそのじゅず（数珠）を持って、どくけいを聞いているときみんな泣いたんだって」

「どくけい？」

「どっけいだっけ？ ぞくけい？ ってゆうか～、とっけいだっけ？ どけい？」

「そりゃあ、どきょう（読経）だろう？ バーカ！ もうすこし漢字の勉強をしろ！ ったく～！！」



## 事務所所在地

060-0041 札幌市中央区大通東2丁目8番地5  
 プレジデント札幌ビル9階（908号室）  
 健康生きがいづくりアドバイザー北海道協議会

電話・FAX 011-219-8701  
 （ニックねーむは花丸一番）

## ◆編◆集◆後◆記◆

春ですね。景気の動向はまだ「冬」といったところですが、健生北海道の活動は、「つぼみ咲く頃」です。03年度スタートするこの期、心をあらたに一步を踏みだしましょう。

編集員も6名となりました。

小田桐邦隆・榎本聰子・中島寛子  
 木村満子・田中淑子・塚本久二子